

Labo News

らぼニュース

発行所 公益社団法人愛知県臨床検査技師会
 住所 名古屋市中村区名駅5-16-17
 花車ビル南館 〒450-0002
 電話 052-581-1013
 F A X 052-586-5680
 ホームページ <http://www.aichi-amt.or.jp/>
 Eメール aamt@aichi-amt.or.jp
 取引銀行 三菱UFJ銀行 柳橋支店
 普通口座731-677
 発行人 梶山広美
 編集人 山田 真

No.434 目次

- ◆平成29年度認知症対応力向上講習会Bを開催して…………… (2)
- ◆平成29年度
愛知県臨床検査精度管理調査報告会
および特別講演会に参加して…………… (3)
- ◆尾張北地区研修会に参加して…………… (4)
- ◆第18回愛知県医学検査学会
企画紹介&募集要項…………… (5)
- ◆祝賀会・懇親会の御案内…………… (6)
- ◆地区だより…………… (7)
- ◆第66回愛知県糖尿病療養指導研究会
学術講演会…………… (8)
- ◆基礎講座・研究会…………… (8)
- ◆AiCCLS 愛知県臨床検査標準化協議会
通信 (第52回) …………… (10)

平成30年度定時総会の開催にあたって

庶務部長 夏目 久美子

平成30年度定時総会を下記のとおり開催いたしますので、お知らせいたします。

日時：平成30年6月17日(日) 10:00～12:30

場所：TKP名駅桜通口カンファレンスセンター ホール4D

(旧名称：TKPガーデンシティ PREMIUM名駅桜通口)

本総会は、平成29年度事業報告・決算報告、平成30・31年度役員選任をご審議いただき、平成30年度事業計画・収支予算を報告いたします。

平成29年度は、平成29年度日本臨床衛生検査技師会中部圏支部医学検査学会(第56回)を、担当技師会として開催し、また精度の高い臨床検査を提供するための専門的知識・技能の普及や人材の育成を行う事業として、学術部では学術研究班活動や新人サポート研修会、スキルアップ研修会、臨床検査技師のための認知症対応力向上講習会Bを、組織部では管理運営研修会、地区研修会等を開催しました。医療関連施設への臨床検査精度向上の推進及び支援に関する事業として精度管理調査を行い、結果検討会と精度管理調査報告会および特別講演会を開催しました。また例年同様、HIV抗体検査ボランティア、世界禁煙デー街頭啓発キャンペーン、春日井市健康救急フェスティバルに参画し、全国「検査と健康展」では中央会場として県民の健康増進と衛生思想に関する普及啓発を行ってまいりました。会員数の増加に伴い、会報「らぼニュース」の発行部数は3,500部となり、会員並びに賛助会員向け事業としては、フレッシュセミナー2017や法人設立30周年記念パーティーを開催し、多くの会員に参加していただきました。これらの事業は、例年通り滞りなく遂行することができ、これもひとえに会員の皆様のご理解とご支援の賜物と感謝申し上げます。

平成30年度は、継続事業に加え人材育成や法改正に向けた精度管理事業、認知症研修会等新しい取り組みも計画しています。愛臨技事業はますます盛んになってきており、さらなる会員の皆様の当会への協力とご参加をお願いする次第です。会員の皆様一人ひとりに適切な支援ができるような事業を展開していきたいと考えています。ご多忙中恐縮ではございますが、定時総会へご出席賜りますようご案内申し上げます。

平成29年度認知症対応力向上講習会Bを開催して

副会長 所 嘉朗

平成30年2月25日(日)、名古屋医療センター第7会議室において中部大学の野田教授らの進行のもと、18名の受講生を迎え開催されました。

本講習会は、認知症診断にかかせない神経心理学的検査を臨床検査技師が担当できるようになることを目指しており、朝8時15分開始から19時までのタイトで長時間の講習会ではありましたが、受講生は熱心に聴講され、また、積極的に実習に参加され、知識の再確認と検査の実際を体験していただき有意義な講習会となりました。

平成27年に厚生労働省老健局から「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～(新オレンジプラン)」が策定され、認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発の推進が図られています。また、平成29年3月改正道路交通法施行により高齢者免許更新時の認知症診断の義務化など

が盛り込まれたが、社会問題化している高齢者運転事故の多発に対し、認知症診断体制の確保も喫緊の課題となっています。

この様な状況から、急性期病院から一般病院、さらにはかかりつけ医となる診療所を含めて広く所属している臨床検査技師は、早期診断、早期対応に欠かせない検査の実務を担当することが期待されています。今回参加された受講生は認定認知症領域検査技師を持たない会員も見えましたが、認知症の検査に対応すべく少しでも知識や技術を吸収しようという熱意を感じました。認知症検査分野での今後の皆さんのご活躍を祈念しております。

講習会の運営にあたっては不備等があったと思いますが、受講者からのご意見を聞き来年度に活かしていきたいと思っております。最後に、会場を提供していただきました名古屋医療センター、講師補助の先生方に感謝申し上げます。



日臨技・愛臨技 認知症対応力向上講習会Bを受講して

チーム医療など医療体制が大きく変化する中で、臨床検査技師が担う役割は大きな期待と共に新たな業務への進出など、現代社会や組織に順応した対応が必要です。

今回の講習会では専門的知見を踏まえた講義と認知症に関わる検査を実技形式で行われました。質の高い検査を提供するためには認知症診断に欠かせない神経心理学的検査の知識を学び、認知症の人の視点に立ち理解を深めることが重要であることを学習させていただきました。また、診断を左右する検査結果には正確性も求められますので、履修を重ね、高いスキルを身に着けることが重要と感じました。

講習会は講義と実技研修を1日で行うタイトなスケジュールでしたが、とても充実した内容でした。

国立病院機構 石川病院 大森 健彦
特に、実技実習では初対面の方と対話することで緊張感も高まり、検者と患者、双方の役割を経験できたことは大きな収穫となりました。また、各項についての講師による説明が一方的でなく、受講者に伝えようとする気持ちが溢れ、実技実習でタスクとしてお世話頂いた役員の皆様にも、受講者目線で対応して頂けたことで充実感が得られました。

検査を受けられる方々への配慮は、正確な検査結果を求めるために必須となりますので、今後は多くの方に受講いただきたいと思います。

最後に今回の講習会を開催するにあたり、ご尽力いただいた愛臨技役員の皆様にご心より感謝申し上げます。

平成29年度愛知県臨床検査精度管理調査報告会 および特別講演会に参加して

江南厚生病院 河内 誠

平成30年3月17日(土) 名古屋第一赤十字病院の内ヶ島講堂にて、平成29年度愛知県臨床検査精度管理調査報告会および特別講演会が開催されました。

8月末に実施された精度管理調査には過去最多となる136施設からの申込があり、報告会には175名(会員165名、賛助会員10名)と、こちらも過去最多の参加がありました。

報告会では臨床化学検査・免疫血清検査・血液検査・一般検査・生理検査・輸血検査・微生物検査・細胞検査・病理検査の9部門から調査内容と結果についてポイントを絞った報告がありました。各部門が公正で分かりやすい精度管理調査の実施に向けて努力している姿勢が、短い発表の中からも伝わってきました。続いて行われた精度管理のアンケート集計報告では、各部門の取り組みが参加施設に高く評価されていることが分かりました。

来年度、事業部委員として精度管理調査に携わる身として、精度管理調査の際に寄せられたご意見、ご要望は真摯に受け止め、活かしていきたいと思えます。

特別講演では愛知県臨床検査標準化協議会(AiCCLS)から、その取り組みについて講演いただきました。

AiCCLSの活動として、リーフレットの作成が挙げられます。リーフレットは愛臨技会員に馴染みの深いものですが、その意図が会員に説明される機会はあまり無かったように思います。この機会にAiCCLSの取り組みやその強い想いを知ることができ、非常に意義深いと感じました。

さらに一般検査部門および生理検査部門より、過去に発行したガイドライン・リーフレットの内容について抜粋し、分かりやすく講演いただきました。AiCCLSの発行するガイドライン・リーフレットは、標準化のみにとどまらず新人技師の教育ツールとしても非常に優秀であり、自施設でも活用していきたいと感じました。

精度管理事業に携わられた先生方、本当にお疲れ様でした。先生方の精度管理に対する熱い想いを引き継ぎ、来年度の精度管理事業に取り組んでいきたいと思えます。



尾張北地区研修会に参加して

平成30年2月28日、尾張北地区研修会に参加しましたので報告させていただきます。

水曜日の勤務後18時30分からの研修にもかかわらず多くの方が出席され、外部から参加された方もおみえになり、近年のがんに対する意識の高さがうかがえました。

テーマは「がんリスクスクリーニング（アミノインデックス）—健診での早期発見—」で、味の素株式会社 アミノサイエンス事業本部 アミノサイエンス統括部 アミノインデックスグループ マネージャー 今田智之先生より、日本のがんの現状から生体内のアミノ酸について、またその検査法、健診による早期発見の意義まで幅広く解説して頂きました。

アミノインデックス（AICS）とは、人体を構成している20種類のアミノ酸の血液中でのバランスからさまざまな疾患リスクを一度に評価することをいいます。胃がん・肺がん・大腸がん・膵臓がん・前

名古屋市立西部医療センター 中野 洋一
立腺がん・乳がん・子宮がん・卵巣がんを対象としており、早期のがんや幅広い組織型にも対応した検査であるため、健診や人間ドック等で採血する際に同時に検査できる身体への負担も少ない方法です。

日本におけるがんによる死亡者数は一貫して増加しており、1981年以降死因の第1位となっています。しかし、日本のがん検診の受診率は伸び悩んでおり、男女ともに50%にも満たない受診率です。がんへの関心は高まっている一方で、「受ける時間がない」「健康状態に自身があり、必要性を感じない」等の理由でがん検診を受信しない方が多くいるのも現状です。採血だけで自身の今のがんの可能性を知ることができる。このことがきっかけとなり自分自身の身体への関心が高まり、さらに詳しく検査を受診することへつながるのではないかと感じました。

今後もこのような勉強会に積極的に参加し、自己研鑽に励んでいきたい。



2018年4月11日現在 正会員数 3,210名

第18回愛知県医学検査学会 企画紹介&募集要項

第18回愛知県医学検査学会では以下のような企画を予定しております。県学会の1アップを目指し、これからという方を広く募集いたします。多数の申込みをお願いいたします。

尾張北プレゼンツ これから始めるあなたへ ～超音波検査編 ハンズオン技術講習～

新たに超音波検査を始めた新人技師から超音波検査士を目指す3～5年目の技師に向けて行う講習会で、全体講習20分、機器プレゼン10分、ハンズオン1時間30分を予定しています。開催にあたり、ハンズオン受講者を募集致します。

全体講習では超音波装置の調整からプローブを当てる前に行うべき所見の取り方を、機器プレゼンではエコー装置を提供していただいた企業に装置の特徴や最新技術を解説していただきます。ハンズオンは腹部、心臓、血管領域の3領域に分れ、日本超音波医学会認定資格である超音波検査士を有する技師が指導にあたります。

開催日：2018年7月1日(日曜日) 14:45-16:45 (予定) 第4会場

講師：

全体講習：名古屋大学医学部附属病院 笹木 優賢

ハンズオン

腹部領域：名古屋大学医学部附属病院 笹木 優賢 装置提供：GE Healthcare

心臓領域：名古屋大学医学部附属病院 後藤香緒里 装置提供：PHILIPS

血管領域：春日井市民病院 若林 弥生 装置提供：キヤノンメディカルシステムズ

対象技師：最近超音波検査に配属された人、超音波検査士を受ける3～5年目程度の技師 (参加費：無料)

ハンズオン事前参加登録方法：

先着順で各領域5名程度としますが、新人の方を優先させていただきます。

(全体講習・機器プレゼン・ハンズオンの見学はどなたでも参加可能です)

*応募は会員に限りますが、新人の方はその限りではありません。

申込先 Email：aichikengakkai@gmail.com

担当者：笹木 優賢 (名古屋大学医学部附属病院)

タイトルに『県学会ハンズオン応募』と記入し、本文に氏名・施設名・勤務年数・超音波経験年数・希望領域名を明記し、上記Emailアドレス宛にお送りください。

申込開始：2018年5月21日(月)

これ以前の連絡は無効とさせていただきますのでご注意願います。

(定員に達し次第締め切りさせていただきます)

祝賀会・懇親会の御案内

「祝賀会・懇親会」を第18回愛知県医学検査学会の当日、下記の要領にて開催いたします。

祝賀として、愛臨技が表彰する「感謝」、功労者表彰および永年職務精励者表彰の皆様を盛大に祝福したいと思います。また、会員・賛助会員相互の親睦を深め、絆を強める場としても大いに盛り上げたいと考えております。是非とも多数のご参加をお待ちしています。

なお、参加の申し込みは6月15日(金)までに愛臨技事務所までFAXにてお知らせ下さい。申込FAX用紙を添付しますのでご利用ください。

記

日 時：平成30年7月1日(日) 17時00分～19時00分
会 場：ホテルプラザ勝川 4Fけやき(第2・3会場)
会 費：5,000円(当日、受付にて徴収させていただきます)
締 切：平成30年6月15日(金)(FAXにてお申込みください)

【祝賀会・懇親会 申込書】

	施設名：	申込責任者：	TEL： FAX：
No	会員番号(登録者のみ)	参加者名	
1			
2			
3			
4			
5			

申し込み・問い合わせ：公益社団法人 愛知県臨床検査技師会 事務所
名古屋市中村区名駅5丁目16番17号花車ビル南館
FAX：052(586)5680
電 話：052(581)1013
e-mail：aamt@aichi-amt.or.jp

知多半島栄養サポートフォーラム

公立西知多総合病院 江坂 洋一

2017年11月18日(土)に第19回知多半島栄養サポートフォーラムが半田市の雁宿ホール講堂で開催されました。この知多半島栄養サポートフォーラムは知多半島地域の栄養管理の向上と連携を目指し、2008年に賛同を得た4つの市民病院が中心となり発足し、2008年12月6日に第1回の学術集會を知多市で開催し、年2回の学術集會を常滑市、半田市、東海市などで開催し今回が第19回となりました。今回は一般演題が6題、学術講演として「リハビリテーションに対する栄養介入の有用性」、特別講演として「栄養サポートに必要な経腸栄養の適応から管理まで～胃瘻を中心に～」の内容で開催されました。

栄養管理に興味がある医療関係者の方であれば、施設の規模、職種を問わず、気楽に参加できます。次回の第20回は2018年7月7日(土)、場所は中部国際空港内セントレアホールにて開催される予定ですので、ぜひ興味のある方は参加されてはいかがでしょうか。なお参加者には日本静脈経腸栄養学会認定資格栄養サポートチーム専門療法士認定単位(2単

位)が認定されます。詳しくは本ホームページを参照してください。

【公立西知多総合病院のNST活動に】

- 1) 月・木・金曜日にアルブミンが3 g/dl以下の入院患者リストの作成
- 2) 火・木・金曜日の病棟カンファレンスへの参加
- 3) 月・木・金曜日のカンファレンス前日に
 - ① 介入患者の最新検査データをデータベース上の基本データシートに入力し、血液学的栄養評価を判断する。
 - ② 初回介入患者に栄養評価に関する検査が入院時から行われていなかった場合、1週間以内に血液検査があれば残存検体を用いて、行われていない項目の追加検査をする。
 - ③ 2週間以上栄養評価のための血液検査がない介入患者に対しては、主治医への検査依頼を病棟のNST担当看護師に連絡する。などを行っています。



《愛臨技生涯教育認定登録団体研究会のご案内》

第66回愛知県糖尿病療養 指導研究会学術講演会

テーマ：糖尿病と精神疾患合併
日時：平成30年6月24日(日) 13:00～16:30
場所：名古屋大学医学部附属病院
中央診療棟3階講堂

一般講演 (13:05～15:05)

糖尿病と精神疾患を併せ持つ患者さんの療養支援について

1. 看護師の立場から
碧南市民病院 看護師 奥谷 美香
2. 管理栄養士の立場から
静岡県立静岡がんセンター 管理栄養士 大西 清子
3. 薬剤師の立場から
偕生病院 薬剤部 久保田有里子

特別講演 (15:20～16:20)

糖尿病と精神疾患合併
講師：天理よろづ相談所病院 内分泌内科 北谷 真子

★本講演会は、「日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修会」として第1群1単位、第2群1単位が認定予定です。どちらかを選択してください。

【参加費】愛知県糖尿病療養指導研究会会員無料、
その他参加者1,000円

基礎講座

輸血検査研究班

専門教科：20点
日時：平成30年7月29日(日) 10:00～17:00
場所：愛知医科大学 立石プラザ
テーマ：症例で考えよう！異常反応のトラブルシューティング～基本から臨床報告まで～
講師：愛知県がんセンター中央病院 早川 英樹
藤田保健衛生大学病院 杉浦 縁
JA愛知厚生連 安城更生病院 山本 喜之
輸血検査研究班班員

内容：血液型検査・不規則抗体検査・交差適合試験で遭遇する異常反応とその対応及び症例カンファランス

定員：45名

参加費：1,000円（愛臨技会員）
1,500円（他県技師会会員）
3,000円（非会員）

昼食代：800円（お茶付き）（別途徴収）
※希望者のみ

申込方法：日臨技ホームページより事前登録。非会員の方は、連絡先まで直接ご連絡下さい。

申込開始：平成30年5月1日(火)

申込期限：平成30年6月30日(土)

連絡先：愛知医科大学病院 輸血部 片井 明子
TEL 0561-61-3125

注意事項：定員になり次第締め切ります。締め切りの状況はHPにてお知らせします。参加費の納入方法については受領メールにてお知らせします。

参加費納入確認後、受講案内をメールにてお知らせします。受講案内メールが届かない場合は連絡先までお問合せ下さい。昼食希望の方は受講案内メール先へ連絡ください。

研究会

一般検査研究班

専門教科：20点
日時：平成30年6月9日(土) 15:00～17:00
場所：だいどうクリニック5階講堂
テーマ：平成29年度の学会発表をもう1度聞いてみよう
講師：
1. 尿検査機械導入によるTATの改善について
社会医療法人 宏潤会 大同病院 横井 美咲
2. 内部精度管理のアクションプラン
JA 愛知厚生連 江南厚生病院 河合麻衣子
3. 尿中異型細胞出現時における当院の取り組み
稲沢厚生病院 蜂須賀大輔
4. 不妊治療におけるAMHと内分泌の関係
社会医療法人財団新和会 八千代病院
小椋 圭
5. 便潜血検査における便中ヘモグロビン、便中ト

- ランスフェリン同時測定の有用性
医療法人 山下病院 伊藤 博子
6. 尿検査を契機に横紋筋融解症の診断に至った1症例
公立西知多総合病院 服部 聡
7. 褐色尿からメラニン尿を同定した1症例
藤田保健衛生大学病院 山口 高明
8. XN-9000 を用いた気管支肺胞洗浄液 (BALF) 測定の基礎的検討
JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 藤上 卓馬
9. 体腔液検体 (胸水) における機器測定分類報告について
名鉄病院 赤座久美子
10. *Philophthalmus*属による眼球寄生の一例
岡崎市保健所 佐藤 千歳
司 会：社会医療法人 明陽会 成田記念病院 望月 里恵
碧南市民病院 包原 久志
- 内 容：平成29年度に第66回日本医学検査学会、第56回日臨技中部圏支部医学検査学会、第87回日本寄生虫学会で発表された方々にお集まり頂き講演していただきます。もう1度聞きたい方から、聞き逃した方や新人の方まで多数の方の参加をお待ちしております。尚、抄録は愛臨技HP→研究班活動→一般検査研究班→行事予定→内容より印刷できます。各自ご持参ください。
- 注 意：開始時刻以降に見えた方は、1階玄関外のインターホンにて「研究会に参加」の旨お伝え下さい。開錠対応致します。

- JA愛知厚生連稲沢厚生病院 蜂須賀大輔
ランチョンセミナー
「検体分注からデータ管理まで、一般検査全自動化を実現する装置・システムの紹介」
アークレイマーケティング株式会社
マーケティング統括本部学術推進チーム 多田 昌代
3. 上皮細胞の見方
公立西知多総合病院 服部 聡
4. 円柱の見方
藤田保健衛生大学医療科学部 星 雅人
5. 結晶その他の見方
愛知医科大学病院 山口 京子
司 会：藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 進藤龍太郎
国家公務員共済組合連合会 名城病院 池崎 幸司

内 容：当直時の緊急検査として行われる髄液検査について「髄液検査技術教本」に沿って、臨床的意義、細胞の鑑別方法を、また尿検査の沈渣について「尿沈渣検査法2010」に沿って、間違えやすい成分や、日常遭遇する事が少ない成分の写真も提示し、各成分の鑑別方法を分かりやすく解説します。これから当直が始まる新人の皆様役に立つ内容です。初心者から、日当直のみで関わる方、ベテランの方まで多数の方の参加をお待ちしております。

定 員：100名

申込期間：平成30年5月1日～6月30日まで。

定員になり次第締め切り。締め切りの状況は一般検査研究班HPにてお知らせします。

申込方法：日臨技HPの会員専用サイトから事前登録。受領メールが届かない場合は下記連絡先までお問合せ下さい。

非会員の方は下記連絡先までご連絡下さい。

参加費：500円 (愛臨技会員)

1,000円 (他県技師会会員)

2,500円 (非会員)

連絡先：ippannaichi@yahoo.co.jp

研 究 会

一般検査研究班

専門教科20点

日 時：平成30年7月8日(日) 10:00～16:30

場 所：豊田厚生病院2階 講義室ABC

テ ー マ：「初心者歓迎!!日当直に役立つ髄液検査、尿沈渣の基礎」

講 師：

1. 髄液検査の基礎

碧南市民病院

包原 久志

2. 赤血球・白血球の見方

専門教科 20点

日時：平成30年6月9日（土）15:00～17:30

場所：愛知県がんセンター中央病院
国際交流センター メインホール

テーマ：日当直時の困った！とその対応

講師：1. 血液型検査で困った！

社会医療法人宏潤会 大同病院
榊原 千絵美

2. 不規則抗体検査・交差適合試験で困った！

J A 愛知厚生連 江南厚生病院
原田 康夫

3. 緊急輸血で困った！

名古屋市立大学病院 小池 史泰

司会：藤田保健衛生大学病院 松浦 秀哲

内容：輸血は時間を問わず依頼され、その対応に苦慮することも少なくありません。今回は日当直時に遭遇するかもしれない“困った”事例を「血液型検査」「不規則抗体検査・交差適合試験」「緊急輸血」の3つの場面で取り上げ、困った点を共有し、その対応について解説していきます。日当直時のみ輸血に関わる方はもちろん、新規採用者の方、指導的な立場の方など多くの参加をお待ちしております。

AiCCLS

愛知県臨床検査標準化協議会

通信
(第52回)

愛知県臨床検査標準化協議会 (Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization : AiCCLS) は、愛知県下の医療施設への臨床検査標準化の啓発活動を軸とした質の高い検査結果の共有維持を目的として、活動しています。

今回は、新しく発行された刊行物、リーフレット「微生物検査 *Vibrio parahaemolyticus*」についてご紹介いたします。

微生物検査を行う時や、それ以外の医療従事者などに説明するなどの時に、病原体、感染症、検査法、検査の注意点など、とても見やすくまとめられていますので、是非ご活用ください。

詳しい内容、購入方法については、愛知県臨床検査技師会HPの臨床検査標準化情報をご覧ください。

(AiCCLS : 愛知県臨床検査標準化協議会)

微生物検査

AiCCLS 愛知県臨床検査標準化協議会
Issue17 微生物検査 細菌病病原 (3)

— *Vibrio parahaemolyticus* —

【病原性】

Genus *Vibrio* (ビブリオ属) は、極単毛の鞭毛を持ち、オキシダーゼ試験陽性を示す通性嫌気性のプロト糖発酵グラム陰性桿菌であり、菌名はその活発な運動性“vibration”に由来している。*Vibrio parahaemolyticus* (腸炎ビブリオ) は、1950年に大阪で発生したシラス干しによる食中毒 (死者 20名) の原因菌として初めて分離され、病原性のあるビブリオとして *Vibrio cholerae* と並び本邦での食中毒の原因菌として重要なもののひとつである。形態的には2種類の鞭毛を持ち、ひとつは被膜を持つ極単毛性で、もうひとつは被膜を持たず脱落しやすい短毛性がある。本菌は海水に生息し、それに汚染された海産物を生食したとき、または汚染された調理器具による感染にて食中毒を起こす¹⁾²⁾。

★POINT

- わが国では、本菌による食中毒のほとんどが夏季に集中している。
- かつてはわが国における食中毒の原因の第1位を占めていたが、現在はカンピロバクターやノロウイルスが最も多く、本菌による食中毒は10年間で10%に減少している³⁾。

【感染症】

V. parahaemolyticus による腸炎は、10⁶個以上の菌体を取ると発症すると考えられており、概ね6-12時間の潜伏期間を経て、腹痛、水様性下痢 (時に血便)、嘔吐、発熱などの臨床症状が出現する。予後は一般に良好で、一週日中に回復する。ときに耐熱性溶血毒 (TDH, thermostable direct hemolysin) による死亡例もある³⁾。

【検査】

- 使用する培地 : TCBS 寒天培地、ビブリオ寒天培地、アルカリペプトン水などを用いる。
- 培養条件 : 糞便を直後 35-37°C で 18-24 時間培養する。
- 培地の観察 : TCBS 寒天培地上の青緑色 (白糖非分解)、S型コロニーを観察する (写真 1, 2)。
- 同定検査⁴⁾ : 生化学的性状および好塩性検査を行い、他のビブリオ属と鑑別する必要がある (表 1、写真 3)。
- 検査手順⁵⁾ : 分離培養 TCBS 寒天、ビブリオ寒天 → 35°C、18-24 時間培養 → 集落観察・確認試験
 増菌培養 アルカリペプトン水 → 35°C、6-15 時間培養 → TCBS 寒天、ビブリオ寒天→35°C、18-24 時間培養→集落観察・確認試験



写真1 TCBS寒天培地上のコロニー

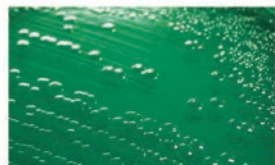


写真2 コロニーの拡大像

★POINT

- V. cholerae* と異なり NaCl が存在しない場合でも増殖できない。
- コロニーは中心部が青緑色で直径 2-3mm の円形に隆起した緑色の S 型を呈する。

Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization

表 1 *Vibrio* spp. の生化学的性状の違い

	O/127	O/139	TSI			LIM		NaCl 0% 10%	NaCl 3% 8% 10%		
			糖分解	硫化水素	インドール	糖分解	糖分解		糖分解	糖分解	糖分解
<i>V. parahaemolyticus</i>	+	+	+	-	-	+	+	-	+	+	-
<i>V. cholerae</i>	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	-
<i>V. fluvialis</i>	+	+	+	+	-	-	d	+	-	-	+
<i>V. vulnificus</i>	+	+	+	-	+	+	+	d	-	+	+
<i>V. alginolyticus</i>	+	+	+	-	-	d	+	+	+	+	+

d: 陽性と陰性の両方あり

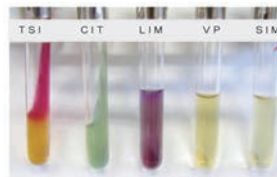


写真3 *V. parahaemolyticus* の IMVIC 性状

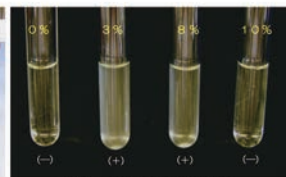


写真4 NaCl 添加による好塩性試験

★POINT

- 本菌のような好塩性菌の同定に際して、同定キットを用いる場合は、NaCl を 1% 添加して行う。
- オキシダーゼ試験は、TCBS 寒天培地のように糖を含む培地上的コロニーで検査すると陽性を呈することがある。
- V. vulnificus* は、本菌と類似した生化学的性状を示すが、腸管病原性はなく主に創傷感染、敗血症を起こす。また、劇症型では、壊死性筋膜炎から短時間でショックに至り、致死率が高い。
- 治療に関しては、抗菌薬療法不要で対症療法が一般的である⁶⁾。

参考文献

- 1) 吉田真一: コレラ菌とビブリオ科の細菌。細菌科の総論。戸田新編医学。563-577。吉田真一、藤野介、南山堂。東京。2006。
- 2) Fujino T, et al. Med J Osaka Univ. 1953; 4: 299.
- 3) 厚生労働省ホームページ食中毒統計資料 <http://www.mhlw.go.jp/foods/syokuchu/04.html>
- 4) 岡田賢。臨床感染。長沢光章ほか: 臨床検査学講座 微生物学/臨床微生物学 第3版。医歯薬出版。160-167。2010。
- 5) 細菌感染症ガイドライン: 培養検査。83-90。日本臨床微生物学雑誌 (20)。2010。
- 6) 大塚和久ほか: 微生物検査ナビ。90-95。栄研化学株式会社。2013。

【発行者】 愛知県臨床検査標準化協議会 (AiCCLS) 微生物検査部門

【問い合わせ先】 〒450-0002 名古屋市中村区名駅五丁目16番17号 花車ビル南館1階

公益社団法人 愛知県臨床検査技師会事務所内 愛知県臨床検査標準化協議会事務局

Tel 052-581-1013 Fax 052-586-5680 2015.6.Ver.1

Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization